

# 令和元年度 学校関係者評価報告書

令和2年3月

学校法人 金沢科学技術学園

(専) 金沢科学技術大学校

学校関係者評価委員会

## I. 令和元年度 学校関係者評価について

学校法人金沢科学技術学園（専）金沢科学技術大学校は、文部科学省が平成25年3月に策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、教職員が実施した「令和元年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づき、令和2年3月25日（水）に学校関係者評価を行いましたので、次のとおり報告します。

## II. 学校関係者評価委員会 委員名簿

委員氏名	関 連
喜多 充	高等学校関係者
織田 岳郎	地元企業関係者
飯田 三郎	業界団体関係者
前多 俊弥	1997年度学校卒業者
智口 明美	保護者代表

## III. 現状・課題と関係者評価・意見

### 1. 教育理念・目標・育成人材像

#### (1) 自己評価結果

【4：適切 3：ほぼ適切 2：やや適切 1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3
②	学校における職業教育の特色として挙げられるものがあるか	4
③	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を描いているか	3
④	学校の理念・目的・育成人材像・特色などが学生や保護者等に周知されているか	3

#### (2) 現状

- ①教育理念、目的、育成人材像については、教育活動方針に定め、全教職員達成に向けて取り組んでいる。
- ②当校の教育目標は、工業系の総合専門学校として社会に貢献できる心豊かで逞しい技術者の育成である。専門教育の充実、資格取得の推進、進路指導及び学生指導の充実を教育活動の柱とし、社会の変化に柔軟に対応できる即戦力となる技術者の育成に努めている。

- ③社会経済のニーズ等をいち早く捉え、学習内容に取り入れていく努力は常に行っており、更に努力したい。
- ④学科ごとに学年の初めのオリエンテーション等を通じて学生に周知しているが、保護者に対する周知をさらに徹底したい。

(3) 課題

- ③職業に係る専門分野が要求する知識や技術は、近年ますます複雑化・高度化しているため、単純に社会のニーズに合わせていくとカリキュラムも複雑化する方向にある。しかし2年間という決められた期間で教育できる内容には限度があり、何が重要で何を省くことができるかを見定める必要がある。

(4) 改善策

- ④保護者への周知については、学科が行っている「三者面談」等の機会を利用するの也是一案と思える。

(5) 関係者評価・意見

評価：3.25

意見：特になし

2. 学校運営

(1) 自己評価結果

【4：適切 3：ほぼ適切 2：やや適切 1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	学校の運営方針は明確に定められ、教職員に明示され、伝わっているか	3
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
③	運営方針を基にした各種諸規定や、人事・給与に関する諸規定は整備されているか	4
④	運営組織や意思決定機能は、規則等で明確に位置づけられ有効に機能しているか	4
⑤	教育活動に対する情報公開が適切になされているか	4
⑥	情報システム化等による、業務の効率化が図られているか	3

(2) 現状

- ①本校の教育を取り巻く諸情勢を踏まえて経営方針、教育活動方針を策定し、年度当初の教職員全体会議で常勤教職員に周知、また各学科が行う学科会議において非常勤講師

に周知している。

②経営方針・教育活動方針に基づき事業計画を策定しているが、より詳細な方針を反映できるよう努めている。

③人事・給与については、就業規則並びに賃金規定を整備し、適正に行っている。

④組織図及び職務分掌表に基づき、権限・義務・責任を設け、意思決定機能の明確化を図っている。

⑤当校のホームページにおいて、自己点検・自己評価、学校関係者評価を年1回更新するとともに、学校概要や教育方針についても公表している。また Kist ニュースも日々の教育活動の情報としてホームページに公開している。

⑥当校独自の学生管理システムにより、学生個々の管理データ（成績、出席、他）を管理し、在学生や卒業生からの種々の証明書などの発行を滞りなく行っている。

### （3）課題

①非常勤講師を交えての年度当初の学科ごとの会議で、欠席した非常勤講師についての周知が徹底しているのか、追跡調査を行っていない。

③人事考課に関する具体的な項目が明確に決められていない。

⑥学生管理システムと就職管理システムを一元化できれば良い。

### （4）改善策

①年度当初の学科会議は学科ごとに重要な教育目標や達成目標（国家試験合格率など）を常勤・非常勤講師が確認する重要な会議であることから非常勤講師の欠席は極力避けられてはいるが、都合上欠席する者もいるのが現状。しかし欠席者に対して後日きちんと対処しているか否かを今後学科長に報告させる事としたい。

③人事考課の具体的な項目については今後、校長、副校長、教務部長、事務長により考えて行く。

⑥学生管理システムと就職管理システムを一元化すべきか否かは賛否があるため関係部署との情報交換を密にして、運用や利用の面から問題点を洗い出し、対応に努めたい。

### （5）関係者評価・意見

評価：3.5

意見：人事考課だが、体的な項目を定めデジタル的に行うとなると数値での評価となるが、その数値にも評価を下す人間の感覚的なものが入り込む。公平に評価を下すことは極めて難しい作業である。それでもある程度参考となるべき評価基準を公表する必要があるのではないか。

## 3. 教育活動

(1) 自己評価結果

【4：適切 3：ほぼ適切 2：やや適切 1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	教育理念に沿って、教育カリキュラムや授業内容が編成されているか	4
②	修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
④	実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
⑤	関連分野の関係施設等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
⑥	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
⑦	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
⑧	人材育成目標の達成に向け、授業要件を備えた教員を確保しているか	3
⑨	先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の資質向上のための取組が行われているか	2
⑩	職員の能力開発のための職場内研修は行われているか	2

(2) 現状

- ①教育理念に基づいた教育活動方針、学科教育方針、また学科会議を通しての講師の提言も踏まえ、豊かな人間性と実践的な知識・技術が取得できるカリキュラムを編成している。
- ②学生に身に付けさせたいスキルを明確にしたうえで、各教科のシラバスを編成し、授業時間の確保と社会のニーズに即した授業内容で、育成する学生像に到達できるようにしている。
- ③カリキュラムは学科の教育方針に基づき、実習を重視しながらも講義と実習が体系的に学習できるように編成している。
- ④実務経験が豊かで知識も豊富な指導講師が、その視点で、実践に即したカリキュラムと教育方法で指導している。
- ⑤関連分野の関係団体と関わりの深い非常勤講師等の意見を取り入れたりして、毎年カリキュラムの見直し等を図っている。
- ⑥授業評価の実施・評価体制については、過去に学生による授業アンケートを実施したことがあるが、評価判断が難しく、現在は行っていない。
- ⑦学則の「施行細則」で明確にしている。

⑧学生が国家試験の受験資格を得るため、必要となる有資格者教員を法規に従い確保している。またそれが必要でない学科については教員としての資質、能力、指導力、人間性を備えた人材を確保するように努めている。

⑨関連分野の関係施設が実施する技術研修会などに参加させ、技術や技能の向上に努めているが、学科によりやや偏りがある。

⑩時間的な問題もあるが、職場内研修を実施できるよう努めている。

### (3) 課題

①～⑤については、専門性や業界内部の事情や状況から、学科ごとに判断基準や理想とする学生の到達像が異なるため、学校全体として評価しにくい面が多々ある。

⑥授業評価については、今後、きちんと評価できる方法を模索してゆかないといけない。

⑨外部団体が行う技術研修会などに参加させ、技術の修得に努めているが短期のものに限られ、長期の研修については時間的に参加させることは難しい。

⑩常勤教員に職場内研修を行いたいが、担当する授業時間数が多く、日々の教育指導の打ち合わせ作業や教材準備、学生の生活指導等で手一杯で余裕がないのが現状である。

### (4) 改善策

⑥授業評価については、学生による授業アンケートを年間2回程度実施し、学科長会議で協議してゆきたい。

### (5) 関係者評価・意見

評価：3.4

意見：専門性や業界事情の異なる学科が寄り集っている学校であることを考慮すれば、全体を統率した教育方針のみに重点を置き、細かな部分については各学科（学科長）の判断で、カリキュラムや授業内容、教育到達レベルを判断せざるを得ないのではないと考える。

また授業評価については、やはり行うべきだと思う。

職場内研修については、授業が組まれた通常の期間はやはり難しいと思うが、夏季休暇中で学生がいない時期などに計画してみてもどうか。

## 4. 学生指導

### (1) 自己評価結果

【4：適切 3：ほぼ適切 2：やや適切 1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	基本的な生活習慣の確立のための取組が行われているか	3
②	学生の安全管理のための取組等が行われているのか	3

(2) 現状

- ①日々の授業態度の中で、生活の乱れより生ずると思われる怠惰や居眠り等の兆候が窺え、且つ、それが顕著である場合には、本人、保護者を交えた三者面談を行い、改善を促している。
- ②急な災害に備え、学生と教職員による全校体制での避難訓練を2年に1度は実施するようになっている。

(3) 課題

- ②癲癇、過呼吸の症状が出た場合の対処や学校に備え付けられたAEDを使用する訓練を近年行っていない。

(4) 改善策

- ②AEDの訓練については、避難訓練と重ならないよう隔年で実施できるよう計画したい。

(5) 関係者評価・意見

評価：3.0

意見：校内において学生が倒れた場合に備えて、対応マニュアル的な物の作成を  
考えてみてはどうか。伝染病の発生時に対処するマニュアルはあるのか。

5. 教育成果

(1) 自己評価結果

【4：適切 3：ほぼ適切 2：やや適切 1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	就職率の向上が図られているか	4
②	資格取得率の向上が図られているか	4
③	退学率の低減が図られているか	3
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2

(2) 現状

- ①企業訪問や説明会、各公的団体が実施する就職情報交換会、就職課と各学科長や担任が連携して、学生個々の適性を重視した就職支援に努めており、内定率の向上を目指した指導に取り組んでいる。
- ②学科ごとに取得目標資格を掲げ、それに向けて計画的な指導を実施している。
- ③日々の授業態度に注意し、欠席が続くなどの兆候があれば、保護者を交えた三者面談

で保護者との連携を密にして退学防止に努めている。

④卒業生については、その活躍を学校案内書に掲載し広く告知している。また在學生については、その専門性を生かしたボランティア活動を紹介し、活動を促している学科もある。

### (3) 課題

①就職率向上への取り組みについては、努力しているが、学生の希望と企業の希望が必ずしも一致しないケースも多く、また社会状況によっては特定の分野の求人が減少し、学生の希望する求人を紹介できなかつたりする場合もあるが、引き続き就職率の向上に努めていきたい。

③授業態度も良く、何の問題もないと思われた学生が急にやる気を失うケース（学校生活以外の問題によるもの）や、学力不足を理由に努力向上を放棄してしまう学生、また経済的に勉学を続ける事が難しい学生など、退学理由は様々であるがゆえに、退学率をゼロにすることは困難だが、なるべく早期に退学につながるような兆候を発見し、ケアする必要がある。

### (4) 改善策

①就職については、学生個々の希望と適性をしっかりと把握し、きめ細かな就職指導・支援に努める事が重要となる。

③退学率の低減には、その兆候を見極めると同時に、学科教員のきめ細やかなケアを含めた支援体制が必要と思われる。

### (5) 関係者評価・意見

評価：3.25

意見：仕事については本人に興味とやる気さえあれば問題なくこなして行けるものである。大事なのは困難を乗り越えようとする心のありようと思える。在学中に困難にくじけないタフな心を身に付けてほしい。

資格がないと仕事に従事できない分野も多いため、資格取得は必須な要素だが、仕事では他の人間との連携も避けて通れないため、技術技能だけでなく人間関係もうまくこなしてゆける能力（コミュニケーション能力）の向上についても気を配ってほしい。

退学率の低減については、退学の原因が絞り込み難いため、今後も学校側にきめ細かなケアに努めてもらうしかないが、その業界で活躍する卒業生などに仕事の面白さや、社会的意義を講演してもらい、適切と思われる時期に在學生に奮起を促す事も必要ではないか。



## 6. 学生支援

### (1) 自己評価結果

【4：適切 3：ほぼ適切 2：やや適切 1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	進路・就職に対する支援体制は整備されているか	4
②	学生相談に対する体制は整備され、有効に機能しているか	3
③	学生に対する経済的な支援体制は整備され、有効に機能しているか	2
④	学生の健康管理を担う組織体制は整備され、有効に機能しているか	3
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
⑥	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3
⑦	保護者と適切に連携しているか	3
⑧	卒業生への支援体制はあるか	2

### (2) 現状

- ①就職課を中心として企業説明会等を企画し、各公的団体が実施する就職情報交換会などを通じて、各学科長や担任と密に連携した組織的且つ計画的な就職支援体制を構築している。
- ②担任を中心に、日々の教育活動やホームルームなどを通して問題のある学生の兆候をいち早く見つけ出し、早期に対応できる体制を構築している。
- ③当校独自の特待生制度による授業料の減免や、学納金の分納について個別に応じるなどの支援を行っている。また高等教育の無償化に向けて 2021 年 4 月より支援機関対象校になるための準備を行っている。
- ④学生課が医療専門機関と連絡を取り合い、毎年、全学生を対象とした学生健康診断を実施し、診断結果に対して医療専門機関よりサポートされる体制をとっている。
- ⑤部活動等の課外活動については顧問を選任し、活動費の予算措置も講じている。
- ⑥通学が困難な学生に対して学生寮を用意している。各部屋にはエアコン、机・椅子、冷蔵庫、ベッドなど最低限生活に必要な家具が予め配備されており。洗濯機、乾燥機などは共用となっている。また学内には食堂があり、外部の業者が食事を提供している。
- ⑦電話連絡や呼び出し等により保護者と連絡を取り合っている。
- ⑧卒業生への支援体制は充分とは言えない。

### (3) 課題

- ①については、現状より手厚くする事も可能ではあるが、限度が見えないのも事実であり、あまり手をかけすぎると学生自身の自主性を殺してしまう場合もある。
- ②～⑤の学生支援項目については、現状からも不十分かと思える。
- ⑦については、保護者によって温度差があり、その距離感がそれぞれ異なるため対応が

難しい。まさに「適切に連携」が求められる。

⑧についての支援体制は整っているとは言えない。

#### (4) 改善策

②担任、学科長が中心となり学生の相談内容により、学生課や就職課との協力体制のもとフレキシブルに対応して行く。

③高等教育の無償化に向けて 2021 年 4 月より支援機関対象校になるための準備を行っているため、実現すれば経済的な支援体制の幅を広げる事ができるものと思える。

#### (5) 関係者評価・意見

評価：2.9

意見：学生寮や食堂もあってある程度の学生福利は充実していると思える。

卒業生への支援体制についてだが、卒業生へのフォローとして、まずどう  
いうことができるのか、どのような支援を卒業生は望んでいるかを調査し  
てみたらどうか。

### 7. 教育環境

#### (1) 自己評価結果

【4：適切 3：ほぼ適切 2：やや適切 1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
②	学外実習、海外研修等について、十分な教育体制を整備しているか	2
③	防災に対する体制は整備されているか	3

#### (2) 現状

①施設・設備については、就職した際に企業が使用している機材を抵抗なく使いこなせるように、現場に即した実習機材を極力揃えるように努めている。そのため、毎年計画的に、導入機材の希望リストを各学科に提示させ、可能なものから順次整備している。

②学外実習（インターンシップ）については、学生に一律に強制せず、指導の上で学生から希望が出れば、それに沿って当該企業と交渉し、学外実習に取り組んでいる。海外研修については実施していない。

③避難訓練を実施し、教職員・全学生の防災意識を高めている。

#### (3) 課題

①業界を取り巻く環境や法律が変化するため、新たな検査機器等の導入が必須になったりするケースが最近多くなっている。このための予算確保が重要となるが、年間予算にも限度があるため、目的の機材の導入に長期的な計画も必要となる。

#### (4) 改善策

実習設備等の充実については、技術の進展や養成施設の要要件等を考慮しつつ、優先順位を付けて、更新及び新設を計画していきたい。

#### (5) 関係者評価・意見

評価：3.0

意見：防災に関して、安全避難の学生向けのマニュアルを作成して配布している大学もあるらしい。参考にしてみたらどうか。

学内のネット環境は充分整備されているようだが、今後は5Gの環境が必要となってくるかもしれない。

最近は人手不足からか、インターンシップを歓迎する企業が増えているのではないのか。学生にもっとインターンシップへの参加を促してはいかかがか。

### 8. 学生の受け入れ募集

#### (1) 自己評価結果

【4：適切 3：ほぼ適切 2：やや適切 1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	学生募集活動は、適正に行われているか	4
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
③	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3
④	学納金は妥当なものになっているか	4

#### (2) 現状

①広報課を中心に、各学科と連携し、定期的且つ計画的に高校訪問を実施したり、高校内ガイダンス等に参加している。また、高校生が当校の情報に触れる機会を増やすため媒体誌等を利用し、認知を深めている。

②教育成果は、高校訪問などで高校側に伝えたり、高校内ガイダンスで生徒に直接伝えたりする。また、ホームページから広く不特定多数に発信している。

③入学選考は6つの形態(学校長推薦入試、自己推薦入試、上級課程入試、社会人入試、一般入試、特待生入試)を使って選考している。面接を重視はしているが、一般入試や

特待生入試については学力を計る試験を課している。

④他の工業系の専門学校と比較しても、適正な金額であると考えている。

### (3) 課題

①各学科の教員は授業等で慢性的に忙しく、直接的な募集活動に携わるのは物理的に難しいため、実質、広報課が中心とならざるを得ない。募集活動の補完として媒体誌への学校情報の掲載も行っているが、掛かる費用と得られる効果が釣り合っているかが見えにくい。

③AO入試は実施していない。

④近年の消費税の引き上げや物価の上昇から、教材や消耗品などの経費の負担が重くなり、財務を圧迫している。

### (4) 改善策

①募集活動の費用と効果については今後もデータを取りながら適正なものに変えて行く。

②ホームページの情報を充実したものにする。

③専門学校が行うAO入試については、不信感を抱く高校も多く感じられるため、当校の入試としていまのところ実施予定はない。

④財務全体のバランスを鑑みながら、学費を考えて行く。

### (5) 関係者評価・意見

評価：3.5

意見：TVでこの学校のCMを見ることがあるが、学校名の告知には適していると思える。

ホームページは充実させるべきと思う。

入試については、やや複雑過ぎないか。また工業系専門学校なので、数学の基礎的な問題の試験を課すようにしたらどうか。

## 9. 財務

### (1) 自己評価結果

【4：適切 3：ほぼ適切 2：やや適切 1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
③	財務について、会計監査が適正に行われているか	4

④	財務情報公開の体制整備はできているか	4
---	--------------------	---

(2) 現状

- ①現在、中長期的に見て経営基盤は安定しているが、学生数の確保に努め、健全な財務状況を維持したい。
- ②毎年の事業計画に基づき、適切な予算組を行い、それに沿った事業を行っている。
- ③選任された監事2名による監査が毎年実施され、監査報告書が作成されている。
- ④現在、高等教育の無償化に向けて支援機関対象校になるための準備を行っており、その条件の一つとして財務の情報公開が義務付けられている。(準備中)

(3) 課題

- ①今後、少子化による学生数減を見越したうえで、中長期的な財務収支のバランスを考えたい。

(4) 改善策

学校の収入の中心は学生の納付金であることから、第一に学生の確保が健全な財務体制の基となるのは明白である。

(5) 関係者評価・意見

評価：4.0

意見：なし

9. 法令等の順守

(1) 自己評価結果

【4：適切 3：ほぼ適切 2：やや適切 1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
③	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
④	自己点検・自己評価結果を公表しているか	3

(2) 現状

- ①法令及び専修学校設置基準を遵守し、各法令に準拠した適正な学校運営がなされている。
- ②個人情報については、コンプライアンスに基づき管理されている。

③毎年度、自己点検・自己評価を実施し、課題等を明らかにするとともに問題点を洗い出し、改善に取り組んでいる。

④法令により公表が義務付けられており、学内の掲示板に掲示して公開している。

### (3) 課題

②個人情報に対するセキュリティは、教職員の意識によって大きく異なるため、セキュリティに対する意識付けが肝要となる。

③改善には時間が必要な項目も多々あり、長期的な目も必要となる。

### (4) 改善策

②教職員を対象に、定期的にセキュリティ対策講座（仮称）を開き、個人情報の取扱いに対する意識付けを促す。

④現在は学内の掲示板に張り出しているが、ホームページに掲載する形にして行く。

### (5) 関係者評価・意見

評価：3.25

意見：なし

## 10. 社会貢献・地域貢献

### (1) 自己評価結果

【4：適切 3：ほぼ適切 2：やや適切 1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
③	地域に対する公開講座・出張講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	2

### (2) 現状

①各種団体への貸し校舎等による当校施設の活用を推進している。

②ボランティア等は学生課で推奨し、学生の意識付けに努めている。

③地域から特に要望がないため、ほとんど実施してはいない。

### (3) 課題

②ほとんどの学生は、アルバイト等で忙しいのが現状で、ボランティア活動や自主活動

に参加しにくい。

(4) 改善策

外部団体が主催するようなボランティア活動への参加を積極的に促す。地域・社会に求められ、且つ貢献できるような学校として努力して行く。

(5) 関係者評価・意見

評価：2.33

意見：なし

IV. 総評

今回、各委員からの質問については、学校長、副校長、教務部長、学生課長、就職課長、事務長が回答し、ご理解いただきました。またご意見やご提案については学内で充分検討し、可能な範囲で今後の運営に反映努力する事としたい。